龍王太郎第十編
小三馬作
へ13
3699
10

門 へ13
3699
巻 10

皇朝の神寶十東の御劒を初とし。十の物夏ふ貴き夏人ふ十等十可惜周室の十治世の臣と挙て。大奴が孝も其中ふあり。道家の十仙い十瀛洲西湖の十景龍陽の十勝易学十翼を本とし。漢史十志を收め。孔門の十哲釋氏の十大弟子。醫家ふ東垣十書王羲之が十法李陽氷が十體筆札ふい趙子昂が十勿張懷瓘が用筆十法丹青ふい徐鉉十竹齋が画妙。詩人ふい大暦の十才子。吁江の十賢。鎌倉の十將軍。大内の十才士ふのく名あるその中ふも。忠綱ら声い十里ふ響く武將十哲の名目い唐世ふ起こ。鳳城の十衛い宋ふ始り。先陣の馬い太宗の十驥をひく。紅毛の眼鏡ら十里ときいめ。曾端白が十友い花と託をされい宇治十帖の長譚。年ら續の稗史も十字るを街ふ東西の番附と配る。十日の角力の甲乙を競ふが如き。十数い魯の大野より呉越ふ至る。當今を盛の戯作の流行。十旦の雨の時を違へぬ聖代の豊けき庇蔭。十文字の鎗い鞘十刄の鉄炮も。肖をかめさる時津風麻ふ靡びく艸苅童を十社権現と崇ひる。貴き神のみちのくや。十府の菅苅七府あり。寶舩十の眠の目覚艸も酒の眠のまさるぬ。十月の中旬十日ふのうもあくも心なーある作者の長酒十日醉の飲はげふ遅々ちるもまき十悪の無道もう。他の作家い朝掛夜討と筆の太刀風尖る。そら十郎の十番斬余ら此作一番限十王が勧進い九王がため。不肖が戯作い披露のたえ。唯十目所視十指所指とらへ西工を頼ふ。やらかうやら十團子と共ーまるめたる十夜の面向ら卜行の歓喜ふ勝ま。十玄談ら十習十力十戒よりなーがに十軒張の飴とこもふ漸々はばいて龍王の十編十分ふ售善やうふとら。書肆が十善ふあく。韓信が計畧の十面埋伏よりも。十分賣德弄勘の謀計。ますますもれがらく栄ふ。家ふ十母の眷屬昌ふ十義十常の教備ふる。ふも勧懲の一端あれば。德若ふ五萬歳まで。十本の柱のかぞもつきぬ敏ふ栄を十羅刹もまんりのよと未禄十年辰太夫も賀ひやもらん十日壬子の夫るうで春日の廿日の勘定酒のきげんふ十ごとと述る者い本町庵二代の醉客

嘉永五年壬子新版

式亭小三馬

牛窪郡領宗武
足利直冬の霊
刀鍛冶正武
小唄
蜂兵衛
其先
園部
判太夫
家僕八平
娘於褄

三浦龍丸正辰
天性英武面貌優
美兼ネテ仁慈ヲトリ
衆皆人中の龍王太郎と
称シ陸奥ノ一城ヲ築き
亀ヶ城と号シ其功最
高キ人トシテ龍王城と
ゝ后諸英茲ニ集會シ
数多の賊臣を亡ぼ巻中第一の
俊傑あり
澁茶悪婆阿奈
任侠
野の手の
鬼三郎

指趣得蒙神明之霊告戸自前知将来

足利直冬欽白

○式亭正舗製茶所波落

江戸のあ　代五十文　ゑ　代百文　代百文　代百文

ゑ　代百文　代百文　代百文

絹入　代五十文

代五十文

代五十文

薄化粧　一包百文　半包五十文

薄化粧を　きらの作方

武八十文　ゆこの作方

つゞき

つゞき

つゞき

つゞき

嘉永五壬子歳正月新刻目録

龍王太郎英雄譚 十編 式亭小三馬作
十二編 一陽齋豊國画

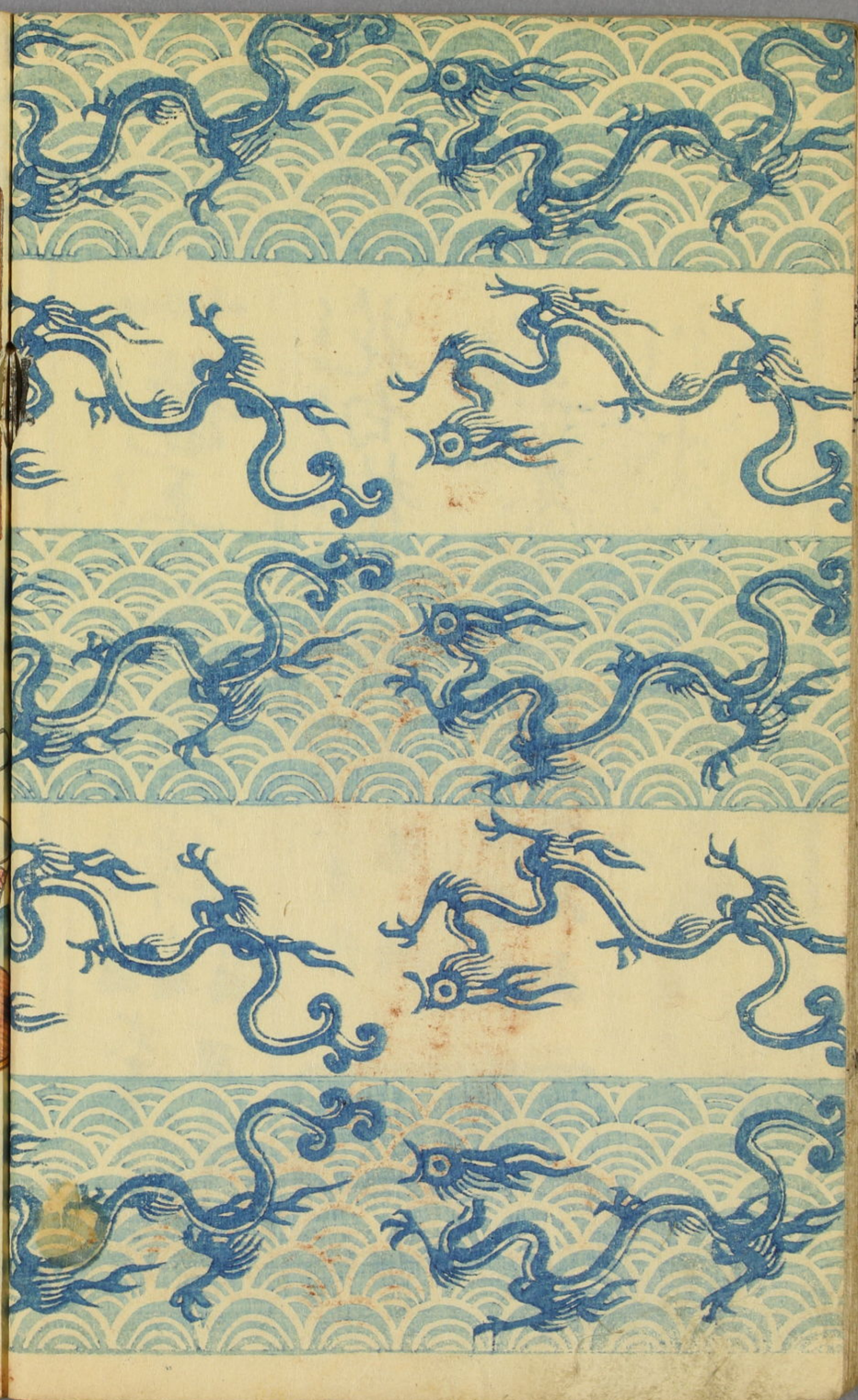
花白梅春風 小三馬作 國輝画

茅案武者鏡 種員作 國政画

敵討栗迺伊賀越 初編より五編まで 一華文子士英壽作 一雄齋國輝画

東錦繪地本御通油屋藤岡屋慶次郎

豐國画
嘉永壬子春
藤慶梓
下



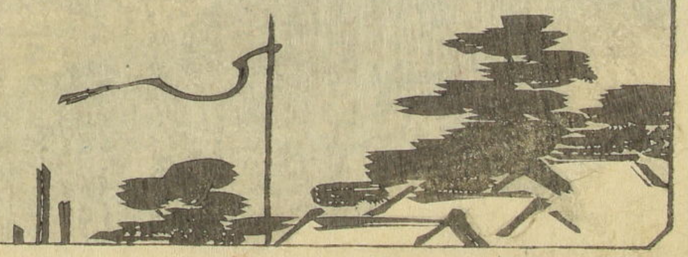
源義経勇壮揃

武者十編

武蔵坊弁慶

武者小路実篤

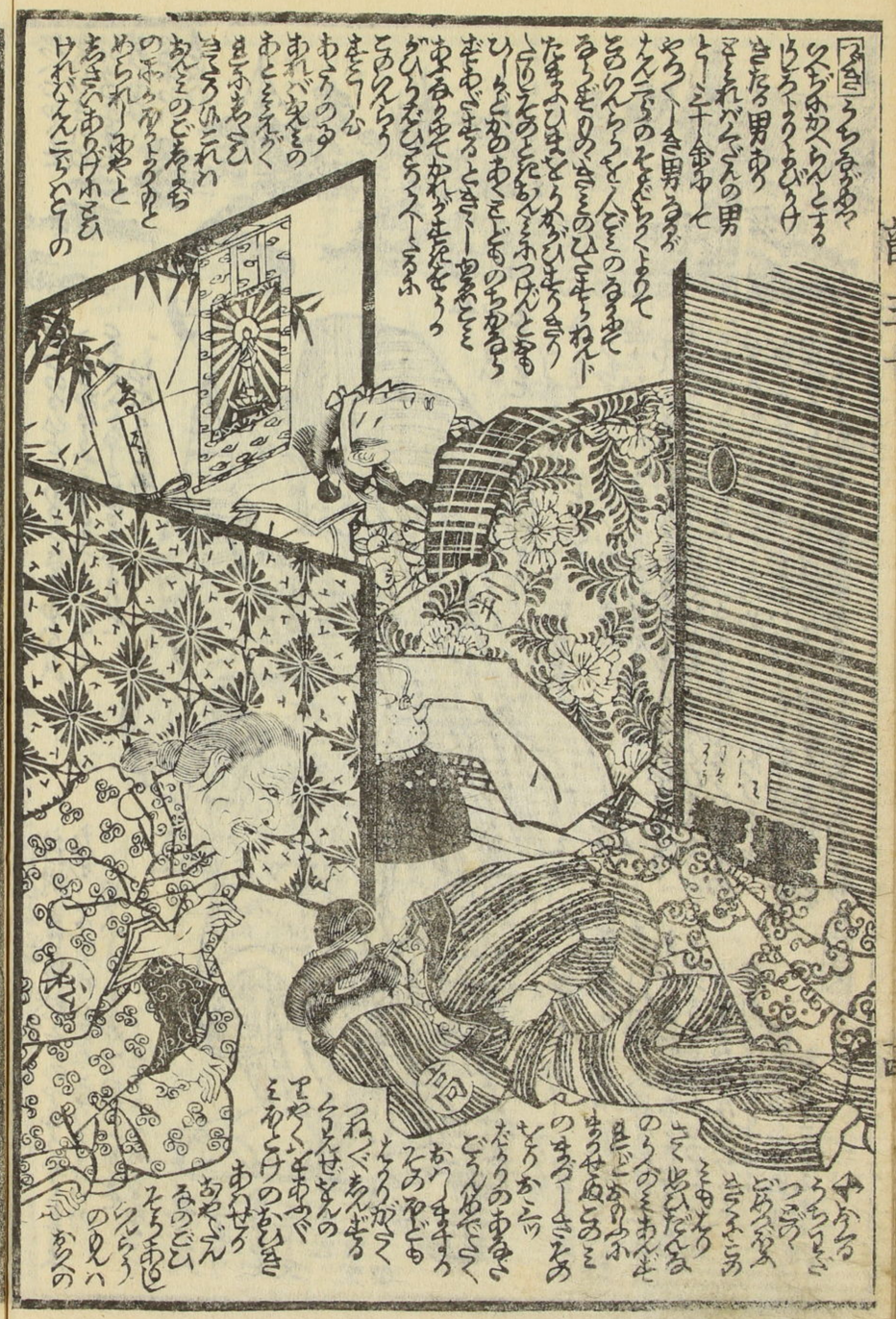
兵庫横丁豊国画



○作者家傳
茶品

八

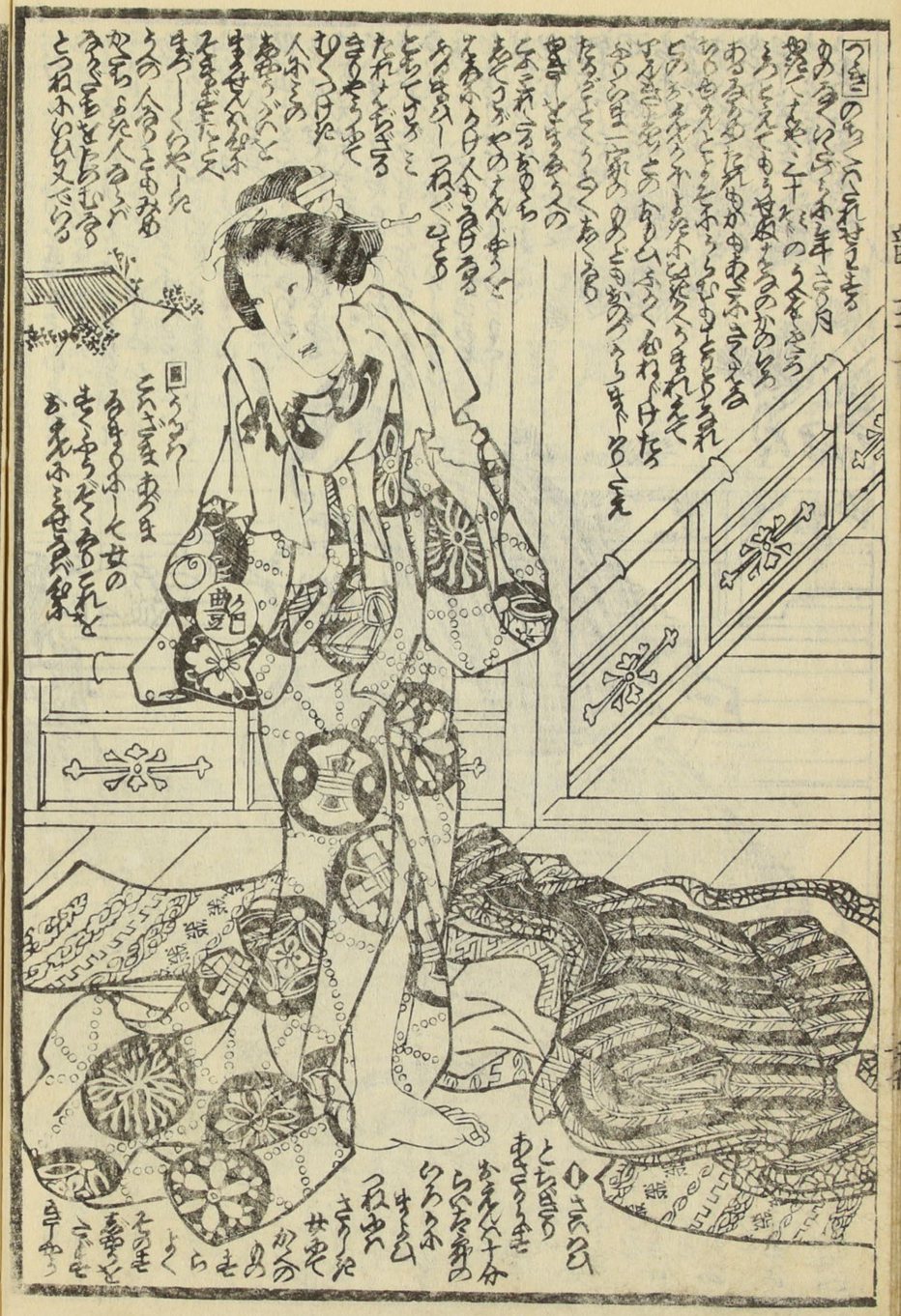
判



松
此画の話解は土編にあり

竹
梅

艶
美
中



○式亭正製
御菜丈

十六文

○さいき人おとそろい和子の
ゑさ才一の臣ろべーたとべ
漢を左ゑ門ーてろ平ゑ丸ゑ
蜀都ゑ丸ゑ臣忠義
保ろ丸のかゑ丸
ある

○作者紫式
仙台人参
即功油
一貫代平文
半貫代九四文

七星を
ゑ元帥ゑ
ふとあらせのむの大ス
あひーゑ井のゑたけ八文曲星
大世虎松八武曲星ゑ

小児百日せきの奇薬
夏代
あくの黒
代六十文

一陽齋豐國画　式亭小三馬作

蘭奢袋

價目下
○雪の友金一百疋
○月の眺○花の宴
金百五十疋金三百疋

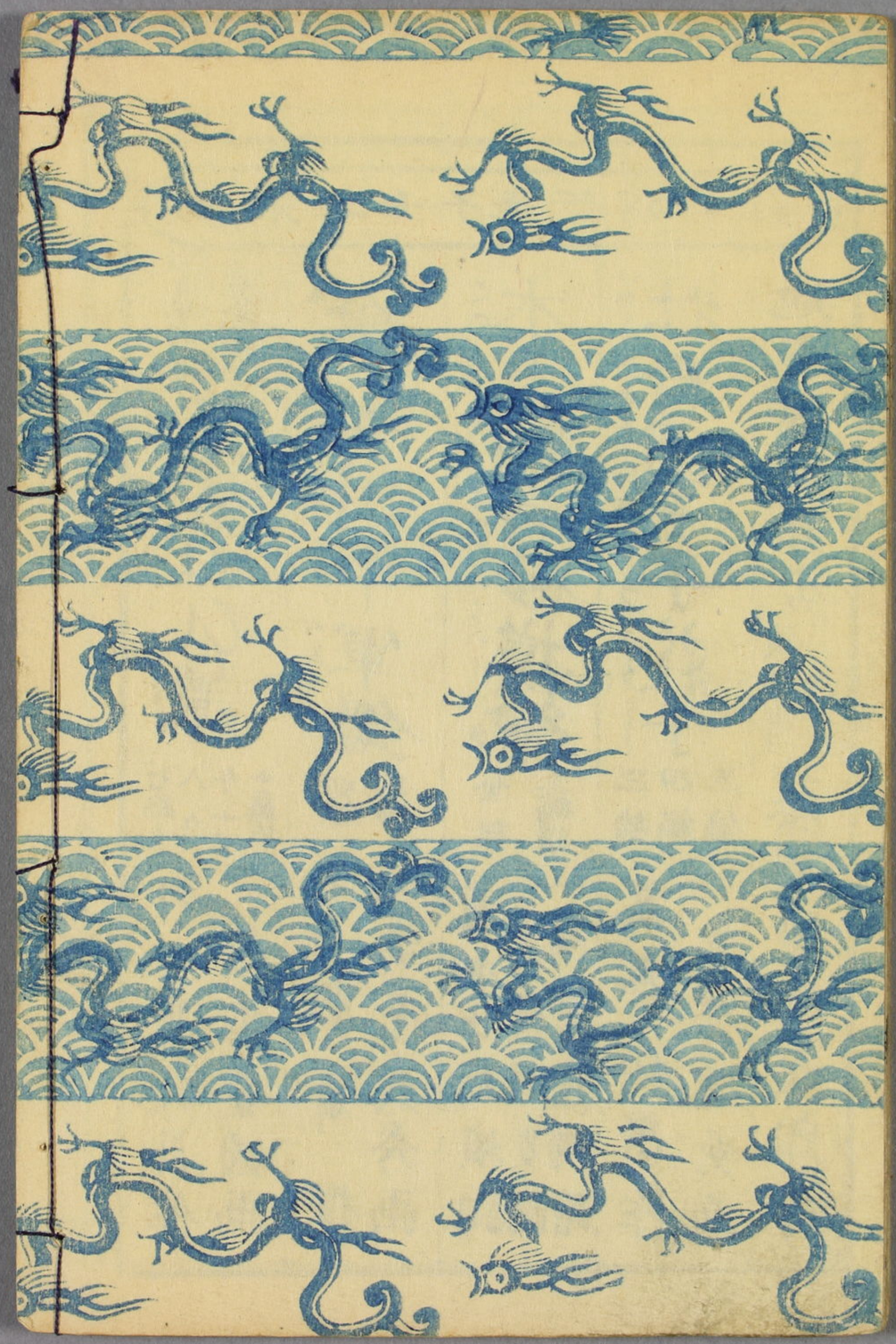
小児出一切の物業
青龍圓
代六十匹

嘉永五壬子春新刻目録

七草四郎
若菜嬢子　ちよこぬひ譚　七編八九十十一十二編迄　柳下亭種員作　一陽齋豐國画

繪本川中軍鑑　初編五編　玉蘭齋　五雲亭貞秀画

木下影真砂模繪　全部三編續　藤本吐敎埴詞　一壽齋國芳画　一陽齋豐國繪

牡丹園女子莊子　三編四編五編　笠亭仙果作　一壽齋國芳画

地本錦繪卸店　通油町　藤岡屋慶次郎梓